

平成19年度

水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

1. 東広島市の概要

(1) 市の概要

- ・古くから酒どころとして栄えてきたが、近年では広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学の3大学と官民の試験研究機関が立地し、知的資源が集積するなど先端技術産業を中心とした立地が進んでいる。

(工業品出荷額県内第3位)

- ・人口 184,430人
(平成17年国勢調査)
- ・位置 広島県央(広島市の東に隣接)に位置。
- ・面積 635.32km²
- ・交通 山陽自動車道、新幹線東広島駅、広島空港など高速交通網が充実。また、JR山陽本線と国道2号が市内を横断し、国道375号が縦断するなど交通の要衝として発展している。



(2) 福富町及び福富ダム周辺地域の概要

- ・広島県のほぼ中央に位置し、山陽自動車道西条ICから車で15分、広島空港から30分、町の中心を国道375号が南北に縦断するなど比較的交通の便に恵まれている。二級河川沼田川の源流地域であり、平成21年3月完成にむけて県営福富ダムを建設中である。良好な自然環境や水資源を活かしたパン、ジェラート、ピザなどの工房の立地が進み、里山と集落の落ち着いた景観を求めて近年都市部からの来訪者が増加している。

- ・人口 2,814人(平成17年国勢調査)
- ・面積 60.71km²
- ・主な特産物 なす、えごま、ちよろぎ
- ・入り込み観光客の推移
平成10年 約4万人
平成17年 約16万人

(3) 福富ダム周辺地域における地域資源、観光、レクリエーション、イベント等の状況

- ・鷹の巣山 広島県南部で最も高い。(標高 922m) ブナの原生林
- ・こだわりの郷ぐる一ふ 民間によるこだわりの工房、店舗の集積
- ・クロボヤ峡 自然溢れる渓谷、シャクナゲの群生地
- ・県央の森公園 キャンプ場、県央の地モニュメント
- ・福富ダム 現在建設中。県営ダムでは最大
- ・イベント(アクアフェスタのみ補助金を交付、その他は地域で運営)

- 1月 大とんど祭り 4月 春起祭
- 5月 しゃくなげ祭り、しゃくなげ満開祭
- 7月 登立公園川祭り、魚塚祭
- 10月アクアフェスタ in 福富
(H19 補助金実績 2,437 千円)
- 11月大根祭り



(4) 地元で活性化の核となる団体及び人物

(各団体を重複して活動している市民が多数いる。)

- ・こだわりの郷ぐる一ふ

地域資源を活かした商売をおこなう店舗が集まり結成。それぞれの個性を活かした店舗を展開。年々観光客が増加し、本市でも有数の観光地となっている。

- ・すいすい倶楽部

福富ダム建設をきっかけとして、下流域との交流連携を目的として結成。下流域との交流連携や水源地域での植林活動などの上下流交流及び同じダムの水源地域である大分県大山町との交流など水をテーマとした活動を続けている。

- ・アクアフェスタ in 福富実行委員会

水をテーマとして平成12年より毎年「アクアフェスタ in 福富」を開催。例年2日間で約7,000人の観光客を集める。

- ・福富物産しゃくなげ館運営協議会

平成14年開業した福富物産しゃくなげ館を地元住民で構成した団体で運営している。地元の特産品の加工販売、そば打ち体験などをおこなっており、地下水を使用した豆腐や減農薬玄米使用のパン、エゴマを使ったドレッシングなどが人気があり、年々販売額を増やし、開業時と比較しほぼ倍増している。

- ・押政地区

地区内の公園を拠点として、とんど祭りや川祭りを実施している。現在整備を進めているパークゴルフ場の運営も予定している。

- ・道の駅運営グループ(仮称)

平成20年秋開業予定の道の駅の運営を行うため、福富町内の住民を中心に組織

の立ち上げを行っている。

(5) 福富ダム周辺地域の将来ビジョン及び課題

福富町は中山間地域であり、全国の他の地域と同様に過疎高齢化が進む地域である。また、現在県営福富ダムの建設が進められており、完成後は国・県道を含む旧福富町中心部が水没することから、地域活力の低下を緩和し、地域の活性化を図ることが急務となっている。

平成12年に行政と民間が協働してアクアフェスタ in 福富やすいすい倶楽部を立ち上げ、「水」をテーマとした活動を行ってきた。現在では主に地域住民が主体となって運営されている。また、個性的店舗を展開するさまざまなオーナーが集まり“こだわりの郷ぐる一ぷ”を結成するなど、主に地域住民が中心となって町の活性化を進めてきた。

現在は地域活性化の核となる施設としてダム湖畔に道の駅とパークゴルフ場の整備を進めており、本市の北部地域の観光拠点、地域情報の発信、地域交流の拠点としての役割を期待している。なお、これらの施設についても地域住民が主体となった運営を予定しており、現在準備を進めている。

今後はより行政から自立した運営と一層の集客力の向上を目指すため、地域住民が運営するそれぞれの既存施設・グループ、そして新たな施設を連携させ、相乗効果を生むことが必要と考えている。

○将来ビジョン

地域住民が主体となった福富ダムを中心とした地域の活性化

○課題

住民が主体となったより一層の自立した運営
地域資源、各施設の連携



2. 水源地域対策アドバイザー派遣の概要

(1) 第1回水源地域対策アドバイザー派遣概要

開催日時 平成19年10月29日～30日

開催場所 会議：東広島市役所
視察：東広島市福富町

● 1日目

意見交換会

参加者

水源地域対策アドバイザー	古賀 学、二瓶 長記
国土交通省水源地域対策課	平野 明德
広島県土木部ダム室	中元 雄二
東広島市企画部長	奥村 和徳
東広島市企画課	永岡 文雄、梅 貴政
東広島市農林水産課	神尾 博志
東広島市福富支所産業建設課	井口 裕介

議 題：東広島市の概要、福富町の概要

会議の内容：アドバイザーに状況を把握していただくため、東広島市の概要、福富町の概要を説明。地域の実情、地元イベントなどを説明。

○東広島市が認識している課題

連携による相乗効果 そのためのきっかけ
何を売りにしていくか。地域産品へのこだわり

○アドバイザーからの提案事項

「水」の印象が強い。 水にこだわりを
水 自然 文化的香り
竹の利活用
湖面の利用
まず福富らしいものを
水の郷にふさわしいものを
森林資源の活用を
山菜、野草の活用
合併後、東広島市に埋没しないように
交流施設の売り 「ここらしいものを一点つくる」



郷土芸能を大切に 昔のものを復活させては
道の駅で伝統芸能を演じてはどうか
観光協会のあり方について 今後は片手間ではできない。専門家を育成する必要がある。

● 2 日目

現地視察

参加者

水源地域対策アドバイザー	古賀 学、二瓶 長記
国土交通省水源地域対策課	平野 明德
東広島市企画課	永岡 文雄、梅 貴政
東広島市福富支所産業建設課	井口 裕介

福富ダム

道の駅予定地

パークゴルフ場予定地

しゃくなげ館

こだわりの郷ぐるーぷ カドレー



(2) 第2回水源地域対策アドバイザー派遣概要

開催日時 平成19年12月13日～14日

開催場所 会議：かやぶき民家（東広島市福富町上竹仁）

東広島市福富支所

視察：東広島市福富町

● 1 日目

参加者

水源地域対策アドバイザー	古賀 学、二瓶 長記
国土交通省水源地域対策課	平野 明德
東広島市企画課	永岡 文雄、梅 貴政
東広島市福富支所産業建設課	井口 裕介
福富物産しゃくなげ館館長	水脇 正司
福富物産しゃくなげ館運営協議会会長	大山 明登

福富町観光協会会長
こだわりの郷ぐる一ぷ代表
福富町商工会
福富パークゴルフ場運営 Gr
すいすい倶楽部官房長官

渡辺 幸典
下永 速
渡川 誠之
橋川 邦義
大久保 高由

議題：水源地域福富の活性化について地域住民との意見交換
※発表者氏名がないものは地域の皆様の発言

・しゃくなげ館：地元産品にこだわった食事の提供を続けている。

開業から5年経った。今よりこれからが課題。次の世代にどうやってバトンタッチしていくか。

・すいすい倶楽部：沼田川の水は県境を越えて水道水として供給している。すごいことだと感じている。活動として水源地域に3年間広葉樹を植林している。

・こだわりの郷：組織化して10年。月1回定例会を開催。スタンプラリー、イベントを実施。10年でやっと認知されたと思う。メディアにも良く出ている。放送があった時はお客さんが多い。

・押政地区：高水敷を使い、日本一のとんど、川祭りを実施。現在、整備を進めているパークゴルフ場を地域で運営したいと考えている。次の世代につなげていくことが課題。

・商工会：しゃくなげを使ったまちおこしを実施。各団体のとりまとめ・調整、地域振興業務が増加している。

・日本一のとんど（押政地区）“イベント”と考えると飲食などが必要となり、地元が大変。“伝統行事”と考えると飲食等は不要。とんどは伝統行事と考えている。参加者が減少していることが課題。

・しゃくなげ館のとんど “イベント”として実施している。鍋は出すが、アルコールは出さない。集客を考え旧暦で実施している。

・川祭り：集客を考え夏休み最初の日曜日に実施している。

・しゃくなげ館来訪者：95%が都市部からの日帰り客。

二瓶) とんど焼は、竹の準備から完成まで都市部の人々に手伝ってもらってはどうか。

・伐採や運搬は安全面に問題があり難しい。保険はかけているが。慣れている人が準備している。平均70代。来訪者には縄を掛けるなど比較的安全なことをしてもらっ



ている。

二瓶) 今日では、観るイベントから参加・体験するイベントへの転換が求められている。しかも、イベントには意外性・話題性も重要である。

- ・しゃくなげ祭りは経済効果大きい。
- ・サツマイモオーナー制度：参加費¥1,000。休耕田を活用している。
- ・体験型イベント：利益ではなく来てもらうことが目的。観光の入口。PR効果。
- ・年5回くらいのイベント、波及効果。
- ・しゃくなげ館：地域の「放送局」として情報発信基地となる。

売るだけが役割ではない。

しゃくなげ館にとってこだわりの郷の存在は大きい。

二瓶) よそでは、各団体がバラバラに活動しているケースが多く団体同士の連携どころではないが、こちらはどうか。

・しゃくなげ館がくじらで、こだわりの郷ぐる一ぷがコバンザメ。逆かも知れない。誰か、どこかが起爆剤になってくれればよい。高齢化が進んでおり、30~40代を育てたい。

二瓶) 後継者不足は全国どこも同じ状況だ。しかも、観光客のターゲットは団塊の世代とのことだが、どうしてなのか。

古賀) 団塊の世代は戦後約3年の間に生れた人々を指している。クローズアップされているが、高齢者、女性全体をターゲットと考えた方がよい。

二瓶) 団塊の世代というよりも、もう少し範囲を広げてシニア世代と方がよい。この世代は誰もが通過する道であり絶対数も多い。旅行会社も若い人からシニア層にターゲットを切り替えてきている。

古賀) シニア層は来るだろう。若い人にどうやって来てもらうかが課題。

若い人をいかに外に出させるか。

古賀) 若い人を集めようとする若くは若い人が活動しないと集まらない。

- ・しゃくなげ館客単価1,000円 福富町内の滞留約3時間。

二瓶) 観光資源がないところはない。人そのものだって観光資源にもなる。要は、それらの資源にいかに価値ある情報を付加させられるかだ。路傍の石だって情報の付加いかんで観光資源にもなる。地元の人にはそれが気が付かないだけだ。また、ダムが出来たからといって地域は変わらないとのことだが、変わらないのではなく、変わるようにしないといけない。

○まちおこし参考事例発表

- ・竹こんにゃく、竹の炊き込みご飯
- ・間伐材を使用したウッドカヌーづくり
- ・縁台づくり。縁台は縁側が原点だ。しかも人と人との縁づくりから発生している。



● 2 日目

参加者

水源地域対策アドバイザー	古賀 学、二瓶 長記
国土交通省水源地域対策課	平野 明德
広島県土木部ダム室	平尾 淳一郎
東広島市福富支所長	竹内 文男
東広島市企画課	永岡 文雄、梅 貴政
東広島市福富支所産業建設課	井口 裕介

(1) 会議

議題：これまでの意見交換を総括

○古賀アドバイザー

問題点は後継者をどうするのか。現状としてよく運営されている。逆に形ができ過ぎで新しい人が入りにくいのではないか。現在13グループ。なぜ次の人が入ってこないのか分析する必要がある。方針として受け入れていくのか、エリアを広げるのか。福富のキーポイントはこだわりの郷。新しい施設とこだわりの郷との連携。

現在の名称「こだわりの郷」を「福富こだわりの郷」にしてはどうか。

キーワード 「いままでやってきた事」、「これから」、「手づくり」

メインは農業 農業景観を整備していくべきではないか。

福富は都会田舎。新しい施設「美しい農村の風景」(少し前の田舎の風景)

今後いかにPRしていくのか。

- ・食 事 「ちょっとしか獲れない物」、「地元だからいっぱい獲れる物」
- ・観光産業 大きい物はない。小さいものが連携して大きくみえる。
福富はよい形になっている。
- ・組 織 個々の繋がりがゆるい方がいいのか、しっかり繋がっている方がいいのか。漠然としていると外から入りにくい。
- ・情報発信 福富に流れる人の窓口づくり → 情報発信基地が必要。

全体としてまだまだやるべき事がある。

○二瓶アドバイザー

福富の人のやる気にはすごいものを感じる。ただ、個々が単独でやっているようにも思える。連携すればさらにパワーアップが図れる。ダム建設を契機に地域力をつけることが大切である。後継者問題もさることながら「人づくり」にはどの地域も悩んでいる。各人は、自分が走ることに懸命だったのではないか。都市住民との連携が大事で、これまで、そうした取り組みが不足していたのでは。

参加者

水源地域対策アドバイザー	古賀 学、二瓶 長記
国土交通省水源地域対策課	小山 実
広島県土木部ダム室	中元 雄二
東広島市企画課	永岡 文雄、梅 貴政
東広島市福富支所長	竹内 文男
東広島市福富支所地域振興課長	伊藤 正博
東広島市福富支所産業建設課	上杉 忠行、井口 裕介
こだわりの郷グループ代表	下永 速
福富パークゴルフ場運営 Gr	橋川 邦義
すいすい倶楽部官房長官	大久保 高由

○二瓶アドバイザー

福富のめざす観光戦略 ～福富が21世紀に羽ばたくために～

- ・わが国の今後の観光振興の方向性
ニューツーリズムへの取組み。
- ・わが国の田舎観光の現状
時代は農村観光へ移りつつある。
日本の原風景への憧れが強くなった。
- ・福富の今後の取組み方策
地域資源調査と観光振興計画の策定。
点観光から面観光への展開。
ダム完成を飛躍の足場にする。
「やる気」と「行動力」で一致団結化。
地域づくりは車の両輪（思索と行動）。
地域の人が講師になる人づくり塾の開講。
基本コンセプトは「水」で、「水の里づくり」への取組み。
サブコンセプトは地域資源の「石州瓦」と「竹」で、このこだわりがポイント。
福富地区内の各組織（団体）同士の連携の強化。



提案

石州瓦による「水」をコンセプトにしたモニュメントの設置
湖畔の里レンタサイクルの設置
既存の「酵素風呂」と「薬草風呂」をセットにしたヘルシー観光の展開
とんど焼とダム湖を連動したイベントの展開
福富観光ガイド及び語り部の養成

ここでしか食べられない特産料理の開発（エゴマ、山野草、竹飯等の活用）
ウッドカヌー工房設立とカヌー遊び（杉材または竹材利用のカヌー）
縁台づくりイベントとお休み処の設置
外国人誘致を狙ったツアープログラム開発とイベントづくり

○古賀アドバイザー

東広島市こだわりの観光振興 ～こだわりの共有化～
東広島市の観光振興の基本は“こだわり”にある。
酒のふるさと西条 ～ こだわりの里福富
水へのこだわり
食・酒へのこだわり
風景へのこだわり

地域としてのこだわりを育てる。

福富水辺の景観づくり 福富エコツーリズム

“眺める”水辺、“飲める”水辺、“入られる”水辺、“文化”の水辺
のんびりと歩く環境づくり

来訪者へのトイレや休憩場所の開放

こだわりのパークゴルフ場整備 棚田（農村の美しさ）をイメージした
パークゴルフ場の整備を。

地域を運営する中核的な組織づくりを

こだわりの歳時記の郷づくり 季節ごとのこだわり

観光の満足度は、地域の人との会話の長さでできる。

キーワード “こだわり” 個人のこだわりの共有化

喫緊の課題 道の駅としゃくなげ館の個性化・住み分け・情報の交流

～事例紹介～

さまざま“こだわり”を活かした街づくり

“お茶”にこだわった街づくり
“夕日”にこだわった街づくり
“環境”にこだわった街づくり
“おもてなし”にこだわった街づくり
“景観”にこだわった街づくり
“和紙”にこだわった街づくり
“そば”にこだわった街づくり
“季節”にこだわった街づくり
“農村”にこだわった街づくり



○質疑応答・意見交換（※発表者氏名がないものは地域の皆様の発言）

二瓶）湖面利用は考えているのか？

ボート、トライアスロンの練習も面白いのではないか。

・パークゴルフ場近辺に桜を植栽し、夏はバーベキューができるようにしたい。

二瓶）ダム周辺景観を活かし、写真展等を開催してもよいのではないか。

・イベントは危険が伴う。

二瓶）なるべく自然を生かした展開が理想であるが、イベントには安全対策が肝心。

現在のイベントのPR方法は？

・新聞やチラシが中心。

二瓶・古賀）最近は大手旅行会社も田舎観光に関心を寄せはじめている。しかも、着地型旅行。拠点地域まで大手旅行会社が手配し、そこからは地元の旅行会社が面倒を見るかたちが今後主流を占めるだろう。

・宿泊施設がないことはネック。

二瓶・古賀）旅館は少ない。農家民宿がいい。旅館やホテルでは受入側との会話がなない。農家民宿ではオーナーと会話があることがポイント。さらに、宿泊と体験が一緒にできるようにしてはどうか。

夕食の用意が面倒ならB&B（宿泊と朝食だけ）でもよい。夕食は、地域食材を活かした福富らしさのあるパブレストラン（カントリーグレインのような）で食べて、宿泊と朝食は農家といったように。

二瓶）福富には美味しい水もあり、優れた景観の山もある。それらを生かしたプログラムの開発が重要。もちろん、ダム湖の近くに遊歩道があることも大切。

○終わりに

本市が課題と認識している“地域資源、各施設の連携ならびに相乗効果”について、平成21年完成予定の福富ダムを起爆剤として各組織・人が連携すること、また、既存地域資源の掘り起こしの必要性を認識させていただきました。また、観光振興については、これまでさまざまな“こだわり”を持って活動してきたことを“個”から“共有”へと進化させていく必要があることもご指摘いただきました。

この地域ではこれまで「こだわりの郷」や「しゃくなげ館」などの既存施設が、地域の皆様を中心とした運営により、都市部からの観光客を増やしております。

現在は新たな観光拠点・地域情報発信拠点としてダム湖畔に「道の駅湖畔の里福富」と「福富パークゴルフ場」の整備を進めております。

これらの施設が連携し、多様な地域資源や地域の“こだわり”に触れていただくことで、さらなる来訪者を呼び込み地域の活性化に努めてまいりたいと考えております。

【参 考】

○こだわりの郷ぐる一ふ“きこりや”

アドバイザーの提案を活かして作成された“手作り木工キット（縁台）”が「東京インターナショナルギフトショー」に出展されました。